

# 迫り来る新型インフルエンザ 個人・企業の対策

2005年3月  
在ニューヨーク総領事館  
医務官 仲本光一

# 鳥インフルエンザとは？

- ★ 鳥の間で流行するインフルエンザで、致死性の高いものが高病原性鳥インフルエンザ(High Pathogenic Avian Influenza)
- ★ 人への感染はまれで、濃厚接触によるケースのみ。熱を通せば鶏肉も卵も感染源にはならない
- ★ 鳥インフルエンザウイルスは渡り鳥を介して広がっている。鳥の密輸入も関連が指摘されている
- ★ 鳥インフルエンザウイルスH5N1型は、刻々と変異しており、ヒトの新型インフルエンザに変わる可能性がある
- ★ 今現在流行している鳥インフルエンザには抗ウイルス薬のタミフルが有効である

# 現在の状況

- ★ 東南アジア、中国、インド、中央アジア、中東、アフリカ、ヨーロッパ各地で鳥での感染が報告あり。  
北米上陸は半年から1年以内か？
- ★ ヒトへの感染は200例程度
- ★ ヒト ヒト感染の証拠は無い
- ★ 各国、特に途上国は抗ウイルス薬の備蓄等の準備が出来ていない
- ★ 米国の薬剤備蓄もまだ不十分である(8100万人分が必要で、現在500万人分)
- ★ 新型に対するワクチンは開発されていない

# 新型インフルエンザ、パンデミック？

- ★ヒトからヒトへ感染するヒトのインフルエンザの大流行
- ★過去に流行した事のない新型インフルエンザ
- ★今流行の鳥インフルエンザから発生するかは不明
- ★いつ・どこでパンデミックが発生するか不明
- ★抗ウイルス薬の効果は不明

# 今、対策が必要な理由

1. 鳥、ヒト、あらゆる動物に感染する機会が増えれば増えるほど、**ウイルスが変異する**確立は高くなる
2. 渡り鳥の移動の阻止、鳥類全ての**処分は不可能**である
3. 一度大流行が発生すれば、その波は一気に**世界中に広がる**
4. 大流行時には航空船舶の**移動制限**が行われ、物資の流通が困難になる
5. **社会的不安の発生、暴動**のおそれもある
6. 新型に対する**ワクチン製造は半年かかる**ため、流行の第一波には間に合わない
7. 大流行に備える投資は通常のインフルエンザや他の災害の被害を減じる事につながる

# 新型インフルエンザ流行に備えたチェックリスト 家庭用

Pandemic Influenza Planning:

A Guide for Individuals and Families

By U.S. Department of Health and Human Services

<http://www.pandemicflu.gov/plan/tab3.html>

# 1. 流行に備えた計画

- 水・食料品の備蓄
- 薬剤の備蓄(痛み止め、胃薬、風邪薬、電解質液、ビタミン剤等)
- 家庭での看病の仕方について話し合っておく
- 地域グループの緊急事態対策に進んで参加する
- コミュニティの対策が機能するために、自ら参加する

## 2. 感染の広がりを抑える方法

- 石鹼水での手洗いを子供に教え、自らも正しいモデルとなる
- 咳・くしゃみ時にティッシュでカバーする事を子供に教え、自らも正しいモデルになる
- 病人に近づかないように教え、もし病気の場合には学校は休ませる

### 3. 緊急時のために自宅に備えておく物

- 調理済み食品、プロテイン・フルーツバー、シリアル、豆類、ドライフルーツ、クラッカー、缶入りジュース、ミネラルウォーター、ベビーフード、ペットフード
- 血糖計や血圧計、石鹼、アルコール系の手消毒薬、解熱剤、体温計、下痢止め、ビタミン剤、電解質液、食器消毒剤、懐中電灯、電池、ラジオ、缶切り、ゴミ袋、ティッシュ、トイレットペーパー、使い捨ておむつ

米国内企業向け  
新型流行に備えたチェックリスト

By CDC [PandemicFlu.gov](https://www.pandemicflu.gov)

# パンデミック第一波の仮定

罹患率、病原性など予測不能であるが・・

- ★ 25%の欠勤率
- ★ 流行が8週間継続

# 1 . 流行に備えた準備計画

- 新型インフルエンザ対策委員会の設置
- 必要不可欠な社員と業者を特定
- 代替労働力のトレーニング
- 製品需要のシナリオを作っておく
- 経済的損出の算出
- 国内、国際移動の影響の算出
- 最新情報のアップデートシステムの確立
- 緊急時の通信計画の確立
- 計画の定期的な予行演習

## 2 . 従業員、顧客対策

- 欠勤社員数の予測
- 社員同士や顧客との接触方法についての検討
- インフルエンザワクチンの推奨
- 医療機関へのアクセスの可否を検討し、必要ならば改善
- メンタルサポート機関へのアクセスの可否を検討し、必要ならば改善
- 重要な社員と顧客を特定し、計画に組み入れておく

### 3 . 基本理念の確立

- 社員の欠勤、復帰時期に対する理念の確立
- フレックスタイム、自宅勤務に対する理念の確立
- 職場でのインフルエンザ拡大予防対策
- 新型インフルエンザ感染が疑われる社員に対する処置方法、対策理念の確立
- 流行発生地域への渡航、発生地域の社員の搬送、帰国に関する理念の確立
- 流行時計画の施行と中止、企業活動の中止等に関する権限者、条件、手続きの設定

## 4 . 従業員と顧客保護のための資材配給

- 全ての事業所に感染防御用品(ハンドソープ、ティッシュ、ゴミ箱等)を提供
- 従業員・顧客との通信手段の確保
- 緊急時に利用可能な医療機関の確保

## 5 . 従業員への伝達と教育

- 新型流行についての基礎的予防教育(症状、感染の仕方、手洗い、咳のエチケット等)の普及
- 従業員の恐怖や不安、噂や誤情報の発生に対して早めに手を打つ
- 情報の伝達が文化的、言語的に適切である事を確認する
- 作成した流行に対する準備や対応計画について従業員に予め知らせておく
- 自宅療養患者のケア方法について情報提供する
- 従業員や取引業者、顧客への情報伝達のプラットフォーム(ホットライン、ウェブサイト等)の開発
- 新型流行や対応方法についての正確な情報源を特定しておく

## 6 . 外部組織との連携と地域への協力

- 保険会社や医療機関と流行時の計画を共有し、対応能力を検討しておく
- 政府、州や地方公共医療施設と流行時の計画を共有し、対応能力を検討しておく
- 地域に対して寄与可能な点について、州や地方公共医療施設に伝達しておく
- コミュニティへの寄与を強化するための、他企業と協力可能な最良の方法を共有しておく

# 情報サイト

- ★ CDC新型インフルエンザ関連情報  
<http://www.cdc.gov/flu/pandemic/>
- ★ 米国政府による新型インフルエンザ情報サイト  
<http://www.pandemicflu.gov/>
- ★ 厚生労働省・新型インフルエンザ対策情報  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/index.html>
- ★ 外務省海外安全ホームページ・感染症情報  
<http://www.anzen.mofa.go.jp/sars/sars.html>
- ★ 労働者健康福祉機構 海外勤務健康管理センター  
<http://www.johac.rofuku.go.jp/news/060130.html>
- ★ 国立感染症研究所・感染症情報  
<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
- ★ 在ニューヨーク総領事館  
<http://www.cgj.org/jp/html/index.html>